

『グレート・ワークスの世界』刊行にあたって

今年は、1854年に横浜で日米和親条約が締結され、わが国が「開国」してから150年目の年に当たります。いまや時代は21世紀を迎え、経済のグローバル化やIT社会の到来など、多くのものが激変と流動の中にあります。図書館もまた新たな時代に対応すべく、資料の収集とサービスの展開において様々な試みを続けているところです。

振り返れば、開国以来、日本が西洋世界と本格的に出会い、近代化への歩みを進める中で、思想や学問の分野でも幾多の人材が輩出し、多彩な言論活動と豊かな知的創造を繰り広げました。これらの大家が達成した業績は、書物として現在に残され、とりわけ「全集」や「選集」などの個々人の著作集はその全容をうかがい知るのに適した資料です。

今年は、神奈川県立図書館にとって創立50周年の年でもあります。この半世紀の間に収集した蔵書には、近現代の日本を代表する思想家や学者の著作集も多く含まれています。当館書庫で、これらの著作集を見るにつけ、著者たちの優れた才能と多大な努力はもちろん、その発行に当たった出版事業者の、必ずしも営利のみを目的としない、文化への高い志が感じられます。そして、そのような出版物をこれだけの範囲で取り揃え、利用に供しうるところに、当館の存在意義の一端があるようにも思われます。

昨年、当館は文献案内シリーズ1として『入門 グレート・ブックス』を刊行し、古今東西の古典・名著を紹介しました。これは「読める目録」として幸い多くのご好評をいただきましたが、今年はその続編として、近現代日本の思想家・学者の人物とその著作集を対象とする『グレート・ワークスの世界』を作成しました。「ワークス (works)」ということばには、彼らの偉大な「仕事」と「著作集」という意味が込められています。この新しい未知の時代にあって、先人の思索や探求の足跡を書物でたどることに意義があるとすれば、そのために図書館は大きな役割を果たせるものと確信いたします。この刊行物により、ほとんどが書庫内にあるグレート・ワークスへ皆様をご案内できれば幸いです。ご愛読とご活用を願ってやみません。

平成16年3月

神奈川県立図書館長

横 田 和 浩